

議会だより

きもつき

第44号

平成29年7月31日
発行

●「きもつき」の題字は波野小
松相 叶美さんが5年生時に書か
れました



たのしいね

写真提供 高佑保育園

6月定例議会（会期：6月9日～23日）

| | |
|-------------|------|
| 一般会計補正予算 | 2 P |
| 一般質問 4人がただす | 3 // |
| 所管事務調査報告 | 7 // |

◆発行 肝付町議会 ◆編集 議会広報委員会

TEL 0994-65-2511（内線 1263）・0994-65-8431（直通）FAX 0994-65-2507

肝付町ホームページでも、ご覧頂けます。 URL <http://kimotsuki-town.jp/>

一般会計補正予算（1号）

93,139千円追加し
101億52,883千円に

地域密着型施設サービス等整備助成事業補助金

小規模多機能ホームの整備に対する補助金
(株) THMM

32,000千円

看護小規模多機能ホームの整備に対する補助金
NPO活動法人南の太陽

32,000千円

介護施設等の施設開設準備経費等支援事業補助金

※補助対象経費 施設開設前6ヶ月分の職員給料、備品購入費等

小規模多機能ホーム開設準備経費に対する県補助金
(株) THMM

5,589千円

看護小規模多機能ホーム開設準備経費に対する県補助金
NPO活動法人南の太陽

5,589千円

畜産業費

報償費 共進会出品手当

600千円

旅費 普通旅費

815千円

9/7～9/11
宮城県仙台市
にて開催2頭
出品予定



一般質問

神之市橋に係わる整備対応について

重田 寅男 議員



重田 高山温泉ドームやぶさめ館、やぶさめの里健康広場に続いて肝付町福祉会館も落成し、7月オープンしました。神之市橋は、幅員が4mです。従って普通自動車同士の離合は極めて困難です。近くにCHROYAソートイング株式会社もあります。総社員は194人で女性が多く、ほとんどの方が主婦です。社会保険も完備され、地域にとってかけ

がえない誘致企業です。私はこれにかかる通行量を調査した結果、通常神之市橋を渡って出社する車は75台程度と確認しました。これ以外に神之市橋を東西に通過する車両は、極めて多いのに驚きました。福祉会館のオープンにより通行量は、さらに増加します。また、このように町民の生活に加え不特定多数の者が利活用、救急、防災時の路線としての役割も担っています。同じ高山川にかかる下之門橋は幅員5mです。一方神之市橋は、幅員4mの車道です。いずれも国土交通省

大隅河川国道事務所により建立されており、神之市橋の交通量の状況から早急な対応が痛感されます。町長のこれに対する対応策について率直な答弁を求めます。

町長 神之市橋の整備につきましては、ただ今ご指摘の通り幅員が狭く離合に苦慮している状況であると十分認識しています。国県にも働きかけましたが、全国的に長寿命化修繕で対応している中で、健全度の高い橋梁の架けかえは、非常に厳しいとのことでありました。従って、起債事業の活用で架設すると判

断しています。神之市橋の上流側に同等幅員の橋を新設します。

重田 次に橋梁長寿命化対策事業について質問します。

町長 本町の町道にかかる橋梁は、133橋です。なお、実績及び平成29年度の計画は次の通りです。

また、平成29年度において5年毎の定期点検を65橋実施します。

今後とも損傷度の大きい橋梁から早期回復

橋梁長寿命化対策事業

| 区分 | 年度 | 詳細調査 | 補修工事 |
|----|----|------|------|
| 実績 | 26 | 35 橋 | 6 橋 |
| | 27 | 6 橋 | 13 橋 |
| | 28 | 5 橋 | 6 橋 |
| 計画 | 29 | 6 橋 | 5 橋 |



神之市橋周辺

掲載してある文章は議員自ら執筆したものを図りつつ、適切な維持管理を実施してまいります。

掲載してある文章は議員自ら執筆したものである。

荒瀬川樋管に災害に備え発電機、排水ポンプの設置を

富永 洋一 議員



※地域住民への不安
解消を！

富永 荒瀬ダムの通水に伴って、住民への防災説明はなされたか。

町長 ダム下流地域の災害対策として、大雨洪水警報が発令された場合、洪水ばきから水が放流される一時間前に、関係機関に通報される。下流で30センチ以上の増水が予想される場合、スピーカーで住民に退避を促すこととなります。

住民への説明会は3

回にわたり実施した。

富永 避難サイレンが出されたとき、現在町が示している避難所以外、別に考えていないのか。

町長 荒瀬ダム、その他災害にかかわらず町が指定している場所と同じである。

富永 高齢化が進んでいる中で、身近な避難場所が必要と考えるが

どうか。

町長 地域の防災組織と連携をとりながら対応していく。

※災害は「備えあれば患いなし」の対応で！

富永 荒瀬川に二ヶ所の樋管があるが、災害

に備え、建設業との発電機、排水ポンプの設



荒瀬ダム

置契約は考えられないか。

町長 近隣の町においては、浸水の恐れのある場所に排水ポンプを設置し、対応している事例もあり地域住民を守るため方策を講じていく。

富永 台風時期に入り、近隣の家屋に被害を及ぼす恐れのある危険家屋の対策をすべきと考



荒瀬川樋管

えるが。

町長 危険家屋等については、台風等で、瓦飛散とかについて危険している。

一層の指導を促していきたい。

富永 損害賠償まで出てくる事態が生じると考えられる。

急を要する対応が必要では。

町長 現地調査を行いながら、より以上の対策を講じてまいりたい。



危険家屋

増大する有害鳥獣被害の対応策について

有害駆除隊員の確保対策は

中原 稔 議員



有害駆除隊員の確保対策について

中原 本町の有害鳥獣による被害は、平成28年度は32万9千円で依然として多額な被害を受けている。
有害鳥獣駆除に従事する人の平均年齢は67歳であり、60歳以上は全体の74%を占めている。

将来、有害鳥獣駆除に従事する隊員の高齢化が更に進み人材不足

になる可能性がある。有害鳥獣駆除隊員の確保対策について町長の所信を伺う。

町長 隊員になるには狩猟免許が必要であり、猟友会を中心に隊員を増やすよう声かけをしている。銃器については公安委員会の許可が必要で、免許取得まで数年かかり、万一事故が発生した場合に人命への危険が及ぶケースが高く、安易に取得を勧めることが出来ない。昨年からは3猟友会の共同捕獲を実施している。

経費負担軽減は

中原 この減少は将来的な有害鳥獣駆除が危惧される。一人前のハンターになるには10年かかると言われている。ハンター免許の取得には経費がかかる様である。経費が負担となり免許取得を躊躇されている人もいる。経費負担軽減の処置はできないか。

狩猟者数の推移は

中原 本町の狩猟者数の推移について把握し

町長 猟友会に勧誘する方と捕獲従事者に対し、どの様な支援が適切か猟友会と協議し、

善処できるよう検討する。

猿害対策について

中原 昨年、果樹農家から猪、猿の駆除について議会に陳情があった。陳情者は、収穫期を向え自主防衛はしていたが、一夜にして被害を受けた。猿害対策をどのように考えているか。

町長 猿害対策については本当に困っている。被害地の調査で胸の痛くなる思いであった。担当課で、何とか急場はしのいでいるが万全ではない。他にも糞尿による忌避対策など有効手段もあるようである。

協議会や大学とも検討し、生産者が生産意欲をそがれるような状況は、防いでいきたい。

対策商品の貸出し

中原 猿害対策の商品が多数照会されている。猿は学習能力があり一種類の防護品では慣れてしまい効果があがらない。数種類の商品を農家が常備するには大変な経費がかかる。行

政で購入し、農家に貸し出す考えはないか。
町長 そういう方法もあるうかと思うので、試験的に呼びかけながらやってみよう。



箱ワナ設置状況

議会の審議もないままに改正される

有留 智哉 議員



有留 今年度から当該

年度前日の3月31日時点において、3歳児以上の幼児教育・保育料の無料化が始まりました。ですが、3歳児以上という言葉だけが独り歩きし、3歳から無料になると思われている方も多く、ホームページ等で解りやすく無料化について説明すべきと考えますが。

町長 様々な方法で解りやすく、町内外へPRしていきたい。

有留 安心して子供を

産み育てられる環境をつくるために、町はどのような対策を講じているか伺います。

町長 子ども・子育て支援事業計画に基づきまして取り組んでいる

ところでございます。

有留 その中に明記してある事業や学校教育支援事業を町民の方々と共有していくことが

大切だと考えます。将来の子育てに対する不安など、事前に町の支

援事業があることを知ることで、不安が少しでも解消することにつながるのではないのでしょうか。

環境の整備はまだ充実を図るべきと考えます。まずは今ある施設や道路などを確認すべきではないでしょうか。

子供たちが安全に快適に暮らせて、子供にも優しいまちづくりを目指すべきと考えます。

町長の考えを伺います。

町長 町民の皆さんへ理解というのはまだ進んでいないかと思いますので、ともに事業として共有する必要があるのでかと感じたところでございます。

そして、より一層子供の視点に立って整備については対応はしていきたいと思っております。

有留 現在は、利用者



フタのない危ない側溝

負担額の無料化を規則で定めているが条例で定めるべきと考えます。条例は議会の議決が必要ですが、規則は定められるに当たって、条例化するべきではないかと思

います。町長の考えを伺います。
町長 安心して子育てができる町を肝付町がPRするためにも条例化が必要があると思つたところでもあります。前向きに検討していきたいと思

います。



保育園の様子



所管事務調査報告書

委員会調査報告

議会広報委員会

●平成 29 年 5 月 24 日（水）

小値賀町広報委員会（小値賀町役場内）

全国町村議長会主催の第 31 回広報コンクールで第 7 位の優良賞を受賞した町にて研修。小さな町だが、「やる気満々」の町である。

小値賀町議会の編集方針は、

- (1) ニュース性を重んじ、2 週間以内に発行する。
- (2) 読み手の身の丈に合わせ、親しみやすい紙面づくり。
- (3) 議員ベースで作らない(読み手が興味のないものは省く)。
- (4) 結果だけでなく、決定に至る審議内容（経過も含め）を重視する。



小値賀町議会委員会室

- (5) 発行後、反省会を開き、読者の声を次につなげるようにする。



小値賀町議会委員会室

理想的な発行時期である。この町は、20 万円程の専用ソフトを購入し、複数のパソコンにて見出しの検討、レイアウトの検討、誌面のデザイン、そして下版の作成を精力的に行う。あとは印刷するだけである。要するに印刷代だけだから、年間 60 万円弱で済む。

パソコンを自由に扱う者が多くなればソフトを導入し、目指すべきであろうと考える。この町が特に注意しているのは「分かりやすく、短的確な文章」を心がけていることである。全く同感である。

●平成 29 年 5 月 25 日（木）

大刀洗町広報委員会（大刀洗町役場）

この町の人口は我が町とほぼ一緒である。しかし、人口減少のスピードははるかに遅い町である。



大刀洗町議会委員会室



大刀洗町議会委員会室

編集の主な留意点は、

- (1) 見出しで概要をつかみ、見出し写真余白のバランスを適切に（文字は詰め込みすぎず）。
- (2) 出来る限り分かりやすい表現に。特に質問と答弁は簡潔に。
- (3) 視覚的なものを考慮する。
- (4) 住民との双方向型の紙面づくりを目指す（町民の声、傍聴席の声、議会報告会での住民意見と議会からの回答など）。

発行に 30 ～ 40 日を目標としている。我が町より早い。日曜議会の開催、インターネット中継もしている。開かれた議会を目指している。

最後に、両町を研修して思うことは、住民に寄り添い、住民と同じ目線で広報誌を作成しようとするところは同じである。

熱意と取り組む姿勢に大いなる違いがあった。最も重要視する「見出して読者の心をつかむ」及び「決定に至る経過も重要視する」というのは、その通りだと思う。

それが、委員の共通の認識であることには驚きを感じた。見習うべきである。

特に両町とも議長自らが高い意識をもち、勉強し、進んで参加し、いいものを作ろうという意志がある事には敬服の念を禁じえなかった。



所管事務調査報告書

調査を実施した項目

産業福祉委員会

1. 肝付町農業振興センターの現状と課題について

委員会調査報告

○肝付町農業振興センターの現状と課題について



農業振興センター事務所

調査実施日：平成 29 年 4 月 28 日（金）

場 所：肝付町農業振興センター事務所、後田ほ場

参加者：産業・福祉委員会委員…7 名

肝付町農業振興センター…3 名

農業振興課…2 名

議会事務局職員…1 名

事務所にて、肝付町農業振興センターの設立の経緯やこれまでの事業への取組み、また現在の状況及び課題等について、福田事務局長及び職員から説明を受けた。

現状と課題については、以下のとおりであった。

①就農者育成事業について（研修事業・雇用就農事業）

・研修事業

カラーピーマン研修生（1 期生）

現在 1 戸 1 名研修中（平成 28 年 7 月研修開始・研修面積 24ha）

平成 29 年 7 月から自立経営方式（独立採算）による模擬研修を開始し、平成 30 年 7 月の就農に向けて、農地及び農業用水の確保が必要である。

カラーピーマン研修生（2 期生）

平成 29 年 8 月に 3 戸 3 組を受入予定であるが、現在は応募者なし。

就農者の募集については、就農フェア、肝付町広報誌、町ホームページで実施中である。

・雇用就農事業

平成 29 年 3 月に雇用就農修了生 1 名を輩出した（就農品目は胡麻）。

平成 29 年 4 月に新たに 2 名の雇用就農生を採用し、現在は 3 名である。作物については、主力品目を限定せずに多品目の実践的研修を実施している。

②受委託促進事業

- ・課題として、再委託先である受委託組織設立に向けた情報収集が不足している。
- ・地域の担い手を中心とした受委託組織設立に向け、情報収集を実施中である。

③農地利用集積事業

・効率的かつ安定的な農地利用を図ることを目的として、農地の買入、借入を実施している。

・課題としては、研修生の就農地として立地条件に適合する農地確保。

④農作業サポーター事業（無料職業紹介事業）

・無料職業紹介事業の許可を得られたため、町内のサポーターを随時募集中である。

・課題としては、広報活動によりサポーター募集をしているが、なかなか集まらない。

⑤その他事業

・地産地消を目的として学校給食等食材の取りまとめを実施している。個人が納入するため、マージンがかかる。

・一般就労が困難な方を支援する団体と連携。農福連携による雇用の創出を実施している。



農業振興センター事務所



鳥越地区研修農場



鳥越地区研修農場



鳥越地区研修農場

※農福連携とは
農業と福祉の連携のこと。

委員会の意見として、肝付町農業振興センターは、農家所得の向上と農業従事者の持続的輩出に貢献することを目的として、年間計画に基づいた様々な事業展開を実施している事が、今回の調査で分った。

第一次産業の振興は、我が町の最大の課題である。引き続き、今後のあり方について調査、検討を続けたい。

陳情書

教職員定数改善と義務教育費国庫負担制度二分の一還元、複式学級解消をはかるための、二〇一八年度政府予算に係る意見書採択の要請について

陳情者 伊集院 達也

採 択

全会一致で採択

意見書

教職員定数改善と義務教育費国庫負担制度二分の一還元、複式学級解消をはかるための、二〇一八年度政府予算に係る意見書

採 択

全会一致で採択

送 付 先

衆議院議長・参議院議長・内閣総理大臣・財務大臣・文部科学大臣・総務大臣

「傍聴者のこえ」

議会を傍聴されて、みなさまのお声をお聞かせ下さい。

編集後記

九州北部の豪雨災害により被害を受けられた皆様に対し、心よりお見舞い申し上げます。連日、新聞報道から目に飛び込んで来るのは、今月5日から記録的な豪雨に見舞われた九州北部の大災害の様子です。流水が散乱し氾濫した川が民家のみ込み、濁流によって一変した町の映像に只々言葉を失ってしまいます。犠牲者を多数出す程の大災害で、今も安否不明者の捜索が続いています。被害者の方々が一日も早く通常の生活に戻れることを強く望んでいます。

わが町では、今後4年間、町民の命と財産を守る旗振り役を決める町長選挙が執行されました。公約でうかがう事は出来なかったが、強い災害から命を守る防災対策に対する施策にも積極的に取り組んで欲しい。

文責 中原 稔

議会広報委員会

委員長 太鼓重義
副委員長 中原稔
委員 中留智哉
委員 富永洋一